令和6年度　江戸川区立宇喜田小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・学ぶ子 ・やさしい子 ・元気な子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・自ら課題を見付け学び、思考力・判断力・表現力・想像力のある児童を育成する。 ・人や自然とかかわりながら、感動する心、協調と思いやりの心を育成する。 ・友達と互いに励まし合いながら、しなやかでたくましい心と体を育成する。
前年度までの本校の現状	成果 ・算数科の校内研究を行い、自力解決する時間を確保することができた。授業の内容が分かりやすいという回答９５%を得た。 ・SCやSSW、教育相談等、外部機関と連携しながら、適切な支援を行うことができた。必要に応じて保護者との面談を実施し、保護者に寄り添いながら対応することができた。 ・開校４０周年記念式典を通して、児童、保護者（PTA）、教職員が一体となって取り組み、学校と地域への愛着を深めることができた。	課題	・学習環境の整備やノートの取り方、話の聞き方に課題が見られるので、学校全体で同じ指導ができるようにしていく。 ・自分の思いをしっかりと伝え、互いの考えを認め合えるようにする。 ・ドリルパークの活用や自主学習、補習教室等を組み合わせながら、学力の定着を目指していく。 ・学習用タブレット端末を活用した、探究的な学習や協同的な学習を進めていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○教科担任制の推進および基礎・基本の確実な習得	・「話の聞き方」「ノートの取り方」等、学習環境整備と学習規律の徹底 ・１日１回以上のペアやトリオ、グループによる「学び合い」の学習活動設定 ・学年での指導の共有化	・授業の内容が分かりやすい（児童アンケート 肯定的回答９０%） ・話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組む態度（児童アンケート 肯定的回答８０%） ・学年での指導の共有化（職員アンケート肯定的回答９０%）	B		B	●ノートの取り方等徹底されていないので、学習規律の徹底をする。 ○ペア学習は定着しつつある。ただし意見を伝えるにとどまっているため、相手の意見を聞いて自分の考えを深められるように指導していく。 ○１年生は交換授業を行い、２年生以上は教科担任制を実施しながら、学年の実態を把握したり、学年全体での指導計画を共有したりすることができた。 ※学期末にアンケート実施。	B	・子供たちのために分かりやすい授業をお願いします。 ・教科担任制を進めて、学力向上につなげてほしいです。	B	○授業の内容が分かりやすい（児童アンケート肯定的回答９４%） ○話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組む態度（児童アンケート肯定的回答８５%） ○学年での指導の共有化（職員アンケート肯定的回答９０%）。教科担任制を推進したことで、学年全体での児童理解、指導力の向上が感じられた。多くの教員から学ぶことに子供たちが慣れてきて、落ち着いて学習できている。 ○教科担任制により、各学級の実態を把握でき、学年で共通した指導ができている。 ○児童同士の学び合いは、学年で共通した提示を行い、主体的な学習になるようにしている。 ●「話の聞き方」「ノートの取り方」「学習規律」に関して、全員の徹底はできていない。 ●学び合いの場を設定しているが、依然として自分の考えを端的にまとめたり、伝えたりすることを苦手としている児童が多い。	B	・引き続き、子供が楽しめるように、分かりやすい授業をお願いします。 ・ICT活用はよいのですが、社会ではフェイスtoフェイスも大事です。	・教科担任制の推進を行い、更なる指導力の向上を図り、児童が分かりやすい授業を目指し、基礎・基本の定着へとつなげる。 ・「話の聞き方」「ノートの取り方」「学習規律」に関しては、年度初めや学年会で確認を行い徹底していく。 ・学び合いの際にオクリンクプラス等を活用し、互いの考えを見合えるようにしながら発表への苦手意識を和らげ、考えをまとめ表現する力を養っていく。
	○家庭学習習慣の定着	・補習時間（朝学習・放課後）の確保、家庭学習習慣の確立 ・「毎日１回実施」「１週間６０分の実施」を目標としたドリルパークの活用	・区の学力定着度調査結果８割合格人数（８０%） ・目標値を超えるドリルパークの実施	C		C	●毎日宿題を出してはいるが、提出については個人差がある。十分な学習習慣の定着にはつながっていないので、家庭に周知徹底を図っていく。江戸川区学力定着度調査結果が、８割に達していないので、各々の苦手問題に繰り返し取り組ませ、基礎・基本の定着を図っていく。 ●スタディウィークでは、ドリルパークに取り組むことはできたが、目標値のドリルパークの活用が十分にできていなかった。２学期以降、日々、担任が進捗状況を確認し、確実に取り組むようにする。	B	・様々な取組があり大変ですが、継続して学力の定着につなげてください。	C	○すき間時間を活用して、ドリルパークにすすんで取り組む児童が増えた。 ○漢字ドリルや計算ドリルなどの宿題は、学習習慣の定着が見られるが、１割程度の児童が身に付いていない。 ○学習カルテの取組が定着してきている。 ●自主学習について、自分の現状を踏まえながら目標をもって課題に取り組む児童は少ない。習い事などで代用できるルールのため、提出については個人差がある。 ●ドリルパークを１週間60分の実施はできていない。	B	・ICT機器をうまく活用して、学力の定着につなげてください。	・昨年度より「家庭学習習慣の定着」の保護者アンケートの数値が高くなってきているので、家庭への周知を引き続き行い、家庭学習への協力を仰ぎ、目的意識をもった取り組みとなるようにする。 ・ドリルパークと漢字ドリル、ドリルパークと計算ドリル、ドリルパークと学習カルテ等、ドリルパークを組み合わせた学年相応の分量の宿題を出していく。
	○読書科の更なる充実	・各学年年間指導計画に基づく探究的な学習の設定 ・タブレット端末と学校図書館のよさを活用した調べ学習の実施 ・読書率の向上	・探究的な学習の計画的な実施（１００%） ・タブレット端末と学校図書館を活用した調べ学習の実施（児童アンケート肯定的回答９０%） ・前学期の読書冊数を上回る読書量の確保	B		B	○年間指導計画に基づいた探求的な読書科の学習を行い、必要に応じて図書資料から情報を得ることができた。 ○タブレット端末と学校図書館を活用して、調べ学習を実施できた。（都道府県調べ） ○読書月間や読書カードを活用し、読んだ本の記録をし、読書量が増えた。 ●「読書貯金カード」等を作成し、読書の記録をつけていくことで、読書量の確保を図る。	B	・これからも読み聞かせや読書記録を通して、読書好きな子を増やしてください。	B	○タブレット端末と学校図書館を活用した調べ学習の実施（児童アンケート肯定的回答８９%）でほぼ達成。 ○SDGｓについて等、タブレット端末と学校図書館を活用して探究的な調べ学習を実施できた。（総合・国語科） ○葛西図書館からの本等、興味のあるネだけでなく幅広い分野の本を読書するようになり、読書量の確保ができた。 ○朝読書の時間に専科等の教員が読み聞かせに入るなど、子供たちが本に興味をもったり親しんだりする機会を増やすことができた。 ○読書月間や読書カードを活用し、意欲的に読んだ本の記録をし、読書量が増えた。 ●時数の減少、教科担任の取り組み等、自由に使える時間が減り、読書率は昨年度に比べて減少した学級もあった。本を借りる児童が偏っている。	B	・読み聞かせは子供たちが本に親しめるよいきっかけになると思います。	・タブレット端末と学校図書館をうまく活用しながら、探究的な学習を進めることができた。引き続き、課題に合った調べ方を進めていく。 ・読書に親しむ素地はできてきたので、物語の本を読む期間を設ける等、読解力も育んでいく。
体力の向上	○運動意欲の向上	・１単位時間における「めあて」の明確化 ・鉄棒、持久走、縄跳びなど運動遊びの充実	・すすんで体育に取り組む態度（児童アンケート肯定的回答８５%）	B		B	●１単位時間の運動量の確保はできているが、授業の「めあて」の明確化が十分に図れていないので、めあてと振り返りをしっかりと行う。 ○休み時間の外遊びや授業における運動量の確保を行うことで、体を動かす意欲が高まった。 ○なわとびウィークでは、縦割り班やグループで、児童が自らすすんで取り組んでいた。	B	・体を動かすことが好きな子供を育てるために、縄跳びウィークや鉄棒月間などの取組を続けてください。	B	○すすんで体育に取り組む態度（児童アンケート肯定的回答８９%） ○鉄棒、持久走、縄跳びなどの運動遊びに児童自ら積極的に取り組むことができた。 ○運動を行うだけでなく、競技を行っている友達への応援の仕方がよくなってきており、運動そのものへの関心も高まっている。 ●「めあて」の明確化ができてきたが、めあてを意識して取り組めない様子も見られた。 ●振り返りの活動を充実させることが課題としてある。	A	・校庭の様子を学校の周りから見させてもらっていますが、楽しそうに活動しています。 ・体力は重要だと思います。	・運動週間としては充実しているが、苦手意識をもっている児童もいる。それぞれのめあてをより明確化することや、振り返りの活動を充実させて意欲の向上につなげていく。 ・運動月間後の表彰やなかよし班での活動を行い、すすんで体を動かす意欲や教え合いのかかわりを大切にしていく。
	○基礎体力の向上	・１年間を通した「なわ跳びカード」の使用 ・学期ごとのコーディネーショントレーニングの実施	・技の習得率の検証 ・昨年度と比較した怪我の割合の減少	B		B	○なわ跳びカードは、継続して使用している。各個人で目標が異なるため、達成率を出すことが難しかったが、すすんで取り組む様子が見られた。 ※年度末に技の習得率の検証を行っていく。 ○コーディネーショントレーニングを実施した学年もあった。帯の時間で継続的に実施していく。 ※怪我の割合の減少を年度末に行う。	B	・縄跳びウィーク等の取組を続けてください。	B	○なわとびカードを年間通して使用することで、達成度が分かりやすく、すすんで取り組む様子が見られた。 ○なわとびや持久走への取組が積極的に行われ、体力の向上や記録の向上につながった児童が多かった。 ●コーディネーショントレーニングは、十分な実施ができなかった。教員全体への周知が必要である。 ●運動や運動環境に起因するけがが依然として多い。自分の技量に合った挑戦や、周囲に配慮しながらの運動にも意識を向けさせる。	B	・鉄棒、縄跳び、持久走に取り組んでいると思います。	・なかよし班を活用したなわとびウィークの取組や、１年間を通したなわとびカードの使用は、意欲向上につながった。引き続き、なわとびカードを使用していく。 ・コーディネーショントレーニングの実施が十分に実施できなかったので、授業の始めの帯の時間を使用する等、確実な実施を行う。

共生社会の実現に向けた教育の推進	○エンカレッジルームの活用促進	・週１回の生活指導夕会の実施 ・うきうきルームの担当	・配慮、支援を要する児童の把握と共通した対応の実施（１００％）	B		B	○週１回の生活指導夕会や運営委員会の後に、配慮を要する児童の共通理解を図ることができた。児童理解を深めるため、学年対応の児童についても、夕会等を通じて、学校全体で共有を図っていく。 ○うきうきルーム担当を割り振ることで、配慮が必要な児童へ、個に応じた対応を行うことができた。	B	・様々なお子さんがいると思いますが、一人一人に応じた対応をお願いします。	B	○週１回の生活指導夕会や、ケース会議を通して、配慮を要する児童への共通理解を図ることができた。 ○２学期より校内別室指導支援員が配置され、個に応じた対応をすることができた。 ○うきうき教室ルームの担当でない教員も状況に応じて適時的に対応しており、児童の安全確保と配慮・支援を優先して動くことができた。 ●うきうきルームの担当について、時間割が特別時程になる時に毎回設定することが大変だった。うきうきルーム担当を機能させるのが難しかった。 ●エンカレッジルームでのクールダウンや気持ちの切り替えが難しい児童（校内の徘徊等）のより効果的な対応を考えていく必要がある。	B	・引き続き、様々なお子さんがいて大変だと思いますが、対応をお願いします。	・保護者と児童に「うきうきルーム」について１学期の初めの保護者会やHP等での周知を行う。 ・気持ちの落ち着かない児童等に対しては、原則、うきうきルーム担当表に基づいて対応していく。 ・自己決定の場を大切にしながら、個に応じた対応を実施し、自己有用感を高めていく。
	○特別支援教育の推進	・月１回の校内委員会、ケース会議、研修の実施	・配慮児童への支援（１００％） ・各学期１回以上の保護者との面談の実施	B		B	○校内員会を通して、児童の実態を共有し、今後の支援について話し合うことができた。 ○学期１回以上の保護者との面談の実施を通して、支援や課題の共有を行った。また、医的ケアや特別支援教室に通っている児童の保護者との面談を定期的に実施している。	B	・様々なお子さんがいると思いますが、個別の面談をしていただき、ありがとうございます。	B	○運営委員会後に校内委員会を行ったり、共有すべき事案がある際には、ケース会議を行う等して、対応することができた。 ○学期１回以上の保護者との面談の実施を通して、支援や課題の共有を行った。 ○必要に応じて校内委員会を通して、児童の実態を共有し、今後の支援について話し合うことができた。 ○けやき教室での指導により学習活動や学校生活全般において改善が見られる児童が多く、授業でも活躍できる姿が増えてきた。	A	・個別の面談等、丁寧に対応していただき、ありがとうございます。	・引き続き、担任と管理職を交えた保護者面談を実施し、適切な助言や支援を行っていく。 ・特別支援教育に特化した研修や、個々の児童の特性を共通理解する場を、定期的に設けていく。
	○外部機関との連携強化	・外部機関等との連携	・必要に応じた外部機関との面談の実施（１００％） ・外部機関一覧表の作成と活用率の考察	B		B	○必要に応じて、SCや外部機関と連携をしながら、適切な支援を行うことができた。 ●外部機関一覧表の作成と活用率の考察を出せなかったので、早急に作成する。	B	・今後も、必要案機関との連携をお願いします。	B	○必要に応じて外部機関と連携をしながら、適切に支援を行うことができた。 ○特別支援専門員から外部機関の情報を得て、保護者との共有ができた。 ●児童アンケートでは４割の児童がスクールカウンセラーの存在を知らなかった。。	A	・取組を理解しています。	・４月の初めに児童へ、SCや校内別室指導支援員について周知をする。 ・SCやSSW、児童相談所等との連携を図りながら、子供たちの望ましい成長を支援していく。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実	・生活指導連絡協議会の活用と生活指導夕会における情報共有	・生活指導夕会の実施（１００％）	B		B	○生活指導夕会は、毎週、必ず実施できた。加えて、いじめ不登校対策委員会も月１回行い、情報を共有した。 ○必要に応じて面談を実施し、保護者と学校の情報共有を図ってきた。	B	・いじめになる前に、未然防止への取組をお願いします。	B	○生活指導夕会で共通理解を図り、内容の把握と今後の対応の共有ができた。いじめ不登校対策委員会も月１回行い、情報を共有した。 ○いじめアンケートを実施し、必要に応じて面談をしたり、個別対応をしたりした。学年で対応し、管理職に即時に報告した。 ○不登校傾向のある児童の保護者と連携を取り、学年・専科会で情報が共有しながら対策をすることができた。	B	・引き続き、未然防止への取組をお願いします。 ・全員が登校できればよいと思いますので、対応をよろしくお願いします。	・不登校気味の児童への丁寧な対応とともに、その児童が在籍する学級における仲間意識やつながりを育み、不登校児童が安心できる居場所を確保していく。
	○人権尊重の充実	・「TPOに応じた言葉遣い」や「自分と他人はちがう」という人権に配慮した指導の実施	・計画的な指導と対応の実施（１００％）	B		B	○日頃から正しい言葉遣いや児童が感情的になった時に、その気持ちを理解するよう心掛ける支援を行った。定着まではしていないため、引き続き、朝の会や帰りの会、学年会を通して、言葉遣いや人権を理解するよう指導を行っていく。	B	・様々なお子さんがいると思いますが、一人一人に応じた対応をお願いします。	B	○日頃から正しい言葉遣い指導を行い、児童が感情的になった時には、その気持ちを理解するよう心掛ける支援を行った。 ○総合的な学習の時間での調べ学習を通して、人権に配慮する意識を学ぶことができていた。 ●１学期に比べて授業中の言葉遣いは改善しているが、TPOに応じた言葉遣いにはまだ課題が見られる。 ●友達同士のやり取りの中で、気付かぬうちに相手が疎外感や差別的な印象を受けてしまいかねない言動がある。	B	・自分の行動がどのようなことにつながるのか、考えられる想像力をつけてほしいと思います。	・引き続き、TPOに応じた言葉遣いや人権に配慮した指導を、日頃から意識して行う。 ・相手意識をもった話し方や話題のもち方ができるよう、引き続き指導を行う。
	○hypaer-QUの活用	・いじめに関するアンケート、授業、研修の年３回の実施	・アンケート、授業、研修の実施と確実な対応（１００％）	B		B	○いじめアンケートを実施し、学年で対応し、管理職に即時に報告し、道徳でもいじめについて扱う授業を行った。Hyper-QUの情報を基に、学級経営に活用していく。	B	・いじめになる前に、未然防止への取組をお願いします。	B	○いじめに関するアンケートを定期的に実施した。結果を学年間で共有して対応し、管理職に即時に報告を行い、未然防止に努めることができた。 ○Hyper-QUを通して、課題を事前に確認し学級経営に活用した。	B	・引き続き、未然防止への取組をお願いします。	・保護者からの肯定的な回答が８９％であった。引き続き、学校全体でいじめを未然に防止できるよう、アンケートの実施やHyper-QUの活用、学年での対応・指導を行う。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校関係者評価の充実	・学校職員、地域への周知 ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・外部評価「教育アンケート」の確実な実施と肯定的回答A・B合わせて８０％	B		B	※学期末にアンケート実施。 ○１学期学校評議員会では、あいさつ指導について肯定的な意見が多かった。	B	・学校公開で子供たちの様子や夏休みの作品を見ることができてよかった。 ・あいさつをする子が増え、とてもよい。	B	○外部評価「教育アンケート」のために、Formsを使って実施することができた。 ○回収率が昨年度よりも向上し、保護者の学校教育への関心が高まっている。	B	・書き初め展の作品を見て、子供たちの頑張りが見えました。 ・登校する時間が早くなってきています。	・教育アンケート１１項目中、５項目が８０パーセントを越えていた。数値が低い「特別支援教育」等の項目については、HP等を活用して取組の周知を行っていく。 ・学校への理解を得るために、Formsのアンケート実施、積極的な学校公開を実施していく。
	○学校HPの充実と情報発信	・学校ホームページの更新 ・迅速な情報発信	・各学年、週１回以上の更新の実施 ・HPやtetoruでの適切な配信の実施	B		B	○週一回程度HP更新ができているので、今後も継続していく。 ○tetoruを有効に活用し、ペーパーレスを実現できている。	B	・あまりHPを見ていなかったが、今後見ていくようにする。	B	○週１回以上のHP更新ができた。 ○学校から発信したい情報を、HPやtetoruを通じて伝えることができた。 ○tetoruを有効に活用し、ペーパーレスを実現できている。	B	・HP更新ありがとうございます。	・学校便りや学年便り等、tetoru配信にすることで、ペーパーレス化と迅速な情報提供ができた。保護者・地域からの理解を得るためにも引き続き行っていく。
特色ある教育の展開	○異年齢集団によるなかよし班活動	・昼休みと掃除の時間における６年生を中心とした内容を工夫した「なかよし班活動」の実施	・なかよし班活動に楽しさを感じる児童（児童アンケート９０％）	B		B	○６年生が中心となって計画・立案し、楽しく活動することができた。他の場面でも、交流する姿が見られる。 ●異年齢による交流がなかよし班活動のみとなり、異学年との交流の楽しさを実感している児童が少ない。	B	・異学年との交流は、互いによさがあるので、大切にしてください。	B	○なかよし班活動に楽しさを感じる児童の肯定的な回答が８８％と高かった。 ○６年生が中心となって計画・立案し、楽しく活動することができた。全校遠足でも楽しかった等の肯定的な意見が多数だった。 ○小松菜新聞や図鑑の本の紹介など、学級の垣でも異学年交流ができた。今年度から１年生のお世話を５年にも分担したことで、５年生は高学年としての意識が高まった。	B	・楽しく交流できていること、６年生のリーダーシップが育っていることが分かりました。	・なわとびウィークでの活動等にも、なかよし班活動を取り入れることができた。来年度はあいさつ運動にも取り入れていく。
	○地域連携教育の推進	・児童が興味・関心を高められる体験活動の学期1回の実施	・計画的な地域・外部との連携した取組（１００％）	A		A	○消防写生会やみんなの下水道、日本茶教室等の外部講師を招いた体験的な活動を実施することができた。 ○地域人材をゲストティーチャーとして、総合や生活科の学習の充実を図る。	A	・体験学習は、子供の学びを促すので、今後も続けてほしい。	A	○保護者アンケートは、９０％が肯定的な回答だった。 ○モルモットとの触れ合いや町たんけん、消防署見学等で、地域や外部と連携し、児童の興味・関心を高める活動を行うことができた。 ○中学校の吹奏楽部を迎えたコンサートや、マジックショー、そろばん教室等、子供たちが様々な芸術・文化に親しむ活動が増え、それらが児童の情操教育に寄与している。	A	・児童が楽しく学べていなかったら、楽しく学べる方策を考えていただきたいです。 ・自転車の学習等、変更になった場合はすぐに実施してほしいと思います。	・保護者アンケートでは９０％の肯定的な回答を得た。次学年のための引き継ぎ記録を残し、記憶だけでなく心にも残る体験活動を実施していく。 ・地域人材をゲストティーチャーとして、総合的な学習の時間の充実を図っていく。